

平成19年度事業の経過

1：事業の経過

(研究成果概要の提出)

文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業については、本組織で自己点検・評価を行うとともに、研究プロジェクトの終了年度においては、研究成果等に係る事後評価を受けることとなっている。そのため、学術フロンティア委員会では、私立大学研究高度化推進委員会において書面審査を受けるため『平成15年度～平成19年度私立大学学術研究高度化推進事業（「学術フロンティア推進事業」）研究成果報告書概要』を文部科学省に提出した。本号には、その研究の成果部分を抜粋して掲載する。

(シンポジウム)

昨年度にひきつづき、キャンパスイノベーションセンター東京地区国際会議場（東京都港区芝浦）で、「学術フロンティア推進事業のこれまでとこれから」と題しシンポジウムを開催した。3名（白井・下山・鈴木）の学術フロンティア委員による、文化財の技術文化史的研究・非破壊分析法による科学調査研究・保存修復研究の5ヵ年間の研究成果をそれぞれ発表するとともに、その発表に対する総合討論をプログラムとして編成し、シンポジウム参加者と学術フロンティア全委員（発表者に加えて大原・馬場・高木参加）が加わり、自由討論を行った。

ディスカッションでは、昨年度の研究発表内容にまで質問がわたり、学術フロンティアにおける研究内容に対して多大な興味をもたれていることがわかった。

(アンケート調査)

研究成果を広く公開するため、文化財総合研究センター研究紀要「文化財情報学研究」を年1回刊行し、同時に、これを電子化して文化財総合研究センターWebページに公開している。研究活動を自己点検・自己評価するため冊子版の研究紀要を贈呈している諸機関宛に、アンケートを同封し、その返信（回答）により、調査した。その結果の詳細については、次項「2：事業の概要」に掲載した。

2：事業の概要

(シンポジウムの開催)

学術フロンティアシンポジウム「学術フロンティア推進事業のこれまでとこれから」

日時：平成19年12月1日（土）13時～16時

場所：キャンパスイノベーションセンター東京地区国際会議場

趣旨：

吉備国際大学文化財総合研究センターは、平成15年度に文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業（学術フロンティア）に採択され、本年度が最終年度である。5ヵ年にわたる文化財の技術文化史的研究・非破壊分析法による科学調査研究・保存修復研究の研究成果を発表し、それらの研究成果の公開とともに、参加者から評価・意見を聴取し、自己点検・評価する

とともに今後の文化財総合研究センターの事業展開に活かすことを目的として開催した。

研究成果発表：

研究分野	発表者（吉備国際大学学術フロンティア委員）
文化財技術文化史的研究	臼井洋輔
文化財科学調査研究	下山 進・高木秀明
文化財保存修復研究	鈴木英治・大原秀行・馬場秀雄

総合討論：

コーディネーター：臼井洋輔

パネラー：大原秀之・下山 進・鈴木英治・高木秀明・馬場秀雄

(アンケート結果)

<アンケート内容>

-
1. 貴機関の専門分野についてお教えてください。A～Lのいずれに属しますか？
博物館（A. 総合 B. 考古系 C. 美術系 D. 民俗系 E. 自然科学系）
研究機関（G. 国公立 H. 企業 I. 財団法人）
教育機関（J. 大学 K. 教育委員会）
L. その他（ ）
 2. 貴機関の所在地方についてお教え下さい。
A. 北海道 B. 東北 C. 関東 D. 中部 E. 近畿 F. 中国 G. 四国 H. 九州 I. 沖縄
 3. 研究内容にユニークさや新規性がありましたか？（5段階評価）
5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
大いにある 無い
 4. 研究内容は社会に役立つと思いますか？（5段階評価）
5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
大いに役立つ 役立た無い
 5. 研究内容は学術的に評価できると思いますか？（5段階評価）
5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
できる できない
 6. 今後の弊センターへの要望、内容などお気づきの点がありましたら自由にお書きください。

<集計結果>

回答機関数：115

(設問1と6は省略)

2. 貴機関の所在地方についてお教えてください。		
A. 北海道	0機関	0%
B. 東北	8	7
C. 関東	15	13
D. 中部	8	7
E. 近畿	15	13
F. 中国	49	43
G. 四国	10	9
H. 九州	8	7
I. 沖縄	2	2

3. 研究内容にユニークさや新規性がありましたか？		
5 (大いにある)	26機関	23%
4	62	54
3	20	17
2	4	3
1 (無い)	2	2
無回答	1	1

4. 研究内容は社会に役立つと思いますか？		
5 (大いに役立つ)	35機関	30%
4	54	47
3	22	19
2	3	3
1 (役立た無い)	0	0
無回答	1	1

5. 研究内容は学術的に評価できると思いますか？		
5 (できる)	41機関	36%
4	48	42
3	21	18
2	2	2
1 (できない)	0	0
無回答	3	3

このアンケートに対する回答は、文化財研究機関、博物館相当施設、および教育委員会の文化財担当局等である。設問1については、複数の専門分野を持つ博物館も設置されていることから、専門分野別による比較は行わなかった。5段階評価における設問3、4および5においては、いずれの設問も5（大いにある・大いに役立つ・できる）と4の評価があわせて70%以上を占め、概ね高い評価を外部機関から得られている。設問6の自由記述欄において、研究活動に対する意見・提案として、「吉備の文化財の本質解明」、「近・現代美術作品の分析」、「吉備学の確立（地域に根ざした研究機関という意味で）」、「文化財の講義の充実と人材育成」、「先行研究との比較研究の必要性（参考文献が少ないことから）」、「新技術や地域貢献、産学官連携について各フェーズごとにまとめた紀要の発行」、「紙資料、写真等の保存に関する研究の充実」などの要望が記載されており、今後、研究対象物を広げることと、人材育成など後進の育成を期待していることが伺える。